

# 本能寺の変と安土城

天正10年(1582)6月2日

未明、天下統一を目前にした織田信長は、京都本能寺で家臣の明智光秀の襲撃に遭い、命を落とします。「信長討たれる」の知らせは、その日の昼前には城下にもたらされ、住人たちは危険を避けるため、思い思いに逃げ出してしまいます。城を守っていた蒲生賢秀は、信長の妻子を自らの居城日野城(日野町)に避難させますが、信長が心を尽くして築いた城に火をかけるには忍びず、そのままにして退きました。

空き家となった安土城に光秀が入ったのは、3日後。信長妻子をかくまう蒲生氏と、勢田橋(大津市)を焼き落として光秀の行く手を阻んだ山岡氏以外の近江の土豪

たちは、みな安土城に参上し、新たな主君の光秀の前に額づきます。

天皇もまた、安土に勅使を派遣して、光秀と対面させました。しかし、光秀の栄光もつかの間。驚くほどの速さで備中(岡山県)から戻った羽柴秀吉が、四国攻めのため大坂に在陣していた信長の息子の信孝らと合流して、13日に山崎の合戦で明智軍を破り、敗走する光秀は土民の槍に倒れました。

安土城が焼けたのは、その後間もなくです。正確な日時と原因は分かっていません。公家の吉田兼見の日記には、城下の火災の延焼と記されていますが、城下と天主の間にある惣見寺が焼けていないので、誤報だったのでしょうか。宣教師のルイス・フロイスは、信長

の息子の信雄が放火したとしますが、蒲生賢秀の要請で伊勢(三重県)から援軍を率いて来た信雄の足跡は、土山(甲賀市)から先はわからず、安土どころか日野にも到着していません。放火の理由も納得できるものではなく、他の資料にも見られないことから、根拠は薄いと思われる。光秀の娘婿の秀満が、安土城から撤退する時に、城を去る際の風習として火を放ったという説が、一番矛盾がないようです。



安土城跡伝二ノ丸跡で出土した焼け跡 (協力: 惣見寺 写真提供: 滋賀県教育委員会)



熱で変形した瓦や陶磁器 (滋賀県教育委員会蔵)

発掘調査では、火を受けて赤く変色した石垣や、焼け落ちた瓦、炭化した柱などの建築部材、熱で変形した瓦や陶磁器などが見つかっており、激しい火災だったことがわかります。ただそのような焼け跡は、黒金門より上の主郭部(天主・本丸・二ノ丸・三ノ丸を中心とした信長の空間)内では確認できず、焼けたのはこの部分だけだったようです。

いずれにしても、天下統一の拠点となり、後の城郭に大きな影響を及ぼした安土城が焼失してしまっただけで、日本の歴史や文化を考えるうえで、大きな損失といえるでしょう。

(滋賀県立安土城考古博物館 学芸員 高木叙子)

人口と世帯 令和元年12月1日現在 ( )は前月比

総数	82,137人(-7)
男	40,385人(+14)
女	41,752人(-21)
世帯	33,958世帯(+42)

※外国人住民(39カ国・地域/1,545人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。テレビでのデータ放送は都合により終了しましたので、ご了承ください。



この広報紙に掲載された情報は、個人情報保護法に基づき、公開範囲外のものとして扱われます。